

# 政治責任どこに求める

## 日本政治総合研究所理事長 白鳥 令氏が講演



講演する白鳥令氏

山形県懇話会の第509回例会が28日、山形市の山形グランドホテルで開かれ、日本政治総合研究所理事長の白鳥令氏が「どうなる！日本の政治―野田内閣はこのまま続くのか？」と題して講演した。白鳥氏は「政治が目まぐるしく変化する中で有権者は単一の争点を重視し、政党もその場限りの色合いが濃い。政治責任をどこに求めるべきなのか、違った枠組みから見ることが必要がある」などと語った。以下は講演要旨。

大阪府知事選と大阪市長選は27日に投票が行われ、前大阪府知事の橋下徹氏が代表を務める「大阪維新の会」が大勝した。その背景には大阪の都市としての地位の低下があると思う。大阪の人からは「大阪は万博以降、何も進んでいない」との声を聞いた。こういった意識が潜在的にあり、現状への不満へつながったのだろう。

こうした流れは小泉内閣以降に起こった中央と地方の格差という影響が大阪にまで及んだことを示している。かつて国内政治は中央に陥った。

橋下氏は大阪都構想を打ち出し、意気込みを示している。「権力を持ったら何でもやる」という姿勢は小

## 政治家個人が個別政策か

## 違う視点で見える必要

に集まった利益を平準化して地方に分配していた。大々として最低限の生活を保障する有権者もそれを持ち上げる

側面があり、チェックが機能しない。国会に目を向けても、資本主義と社会主義といったイデオロギーの論争がなく、政党の主張に明確な違いがない。連立のあり方も何でもありの状況だ。特に民主党は小さな議員連合の集まりで、党としての綱領もない。その場限りの「ア

側面があり、チェックが機能し、多数派を獲得した上で、多数派を実現することができなくなっている。政党が選挙のためだけのものになっ

一方、野田内閣は1年で変わるだろう。人を動かすには、具体的な目標を示す手法と、現実とかけ離れた理想を示す手法がある。後者は、理想を示すことで現状の悪さに気づかせ改革を促す。民主党が政権を握ったスタイルだ。ただ、その改革の先には目標がないので、欠点で、混沌(こんとん)化に有権者は追い付いた現状につながっていない。小沢一郎氏が力を発揮できなければ現実的な目標も示すことができたかもしれない。環太平洋連携協定(TPP)の交渉、選挙制

ドホック」政党の典型といえる。民主も自民も議員は党への帰属意識が薄れ、互いに議員を一本釣りすることもできる。こうした変化に有権者は追い付いていない。結果として選挙のときには単一の争点で全てを判断する傾向にある。政党



## 山形県懇話会

野田首相に目標設定は期待できない。

野田首相に目標設定は期待できない。